

身延文庫藏『日進聖人仰之趣』  
古寫本

是は最近、身延文庫未登錄古寫本整理中に偶然發見されたるもの、雜記風の小冊子。内容は進師説法の聽衆の覺え書きらしく、大聖人の身延御在山中の日常性に富んだ逸話に充ちてゐる。資料は斬新で而も確實なもの、第一資料に近くまで推舉するに足る。

書誌學的調査

台帳 當宗雜部一ノ三號 寫時 天文二年  
書名 雜々集 裝幀 風葉  
内題 日進聖人仰之趣 製本 假  
著者 日進談 紙質 楮紙、厚楮  
作時 嘉曆三年 寸法 縱四九寸、辯五九寸  
寫者 舊聖・心甫 壹部 壹冊

字詰 約一〇丁、一二行、傳來 舊聖・心甫。秀哲、

一四字 日純

字体 行書 奥書アリ(後出)

文体 書下シ、和文

なほ、表紙には「雜々集」の下、左右に右から「本化末流」「舊聖」と行書で書かれ、(之は全文の筆者らしい)これにはさまれて、別人の筆、墨色うすく、「今主秀哲」「日純」と花押とがある。(これは恐らく、筆者から直接か間接かに傳來、所持された者であらう)内扉にも「雜々集」と。(左下に「心甫」と記され、筆者の蹟らしい) (本文參照)

日進聖人作...  
 石老修作...  
 全色...  
 月...  
 一...  
 亦...  
 亦...  
 亦...

天...  
 月...  
 日...  
 月...  
 日...  
 月...  
 日...